

# 同窓会報

No.78

編集発行

三重県立  
四日市高等学校  
同窓会

〒510-8027  
四日市市茂福65  
TEL<059>365-3631

印刷  
㈱東海フォトデザインシステム



## 新型コロナウイルスとカーボンニュートラル

同窓会第五代会長 伊藤 勘作 (四高35年度卒)

一昨年末に中国武漢で始まった新型コロナウイルスの感染は、報道によれば現地の初期防疫対応の不手際によって瞬く間に全世界に拡大し、今日世界の感染者数は延1億人以上、死者数は240万人を超えています。

昨年、わが国では今年2月末頃から順次接種が始まるのとありますが、国内の感染拡大防止には少なくとも今年いっぱいはいかかるものと思われ、心配な毎日が続いています。

また、受験前の在学諸君に於かれましては、先の感染防止に万全を期し、期末テストや部活に元気に臨んでいただきませう。

マスクの着用、手洗い消毒やうがいの励行を怠らず、三密(密閉・密集・密接)を避けて、引き続き感染防止に努めていただきます様お願い致します。

一方、学業につきましては大受験のシーズンを迎えてお

り、3年生諸君や担任の先生方のご心労は如何ばかりかと拝察致しますが、コロナに負けず受験生諸君が所期の目的を達成し、母校の名声を一層高めていただきます様心より願っております。

また、受験前の在学諸君に於かれましては、先の感染防止に万全を期し、期末テストや部活に元気に臨んでいただきませう。

「必要です。これまで再生可能エネルギーはコストが高くつくとと言われてきましたが、今こそ人類の英知を結集し、イノベーションやITを駆使してコストカットを達成し、2050年にカーボンニュートラル社会を実現して、地球と人類を守っていかねばなりません。」

野浩名大教授は、日経新聞「第4の革命 カーボン・ゼロ」の紙面で「日本で新技術が生まれる確率は高い。次々に新技術を生み出すのが理想だ。『自分自身はできる』『GAF Aを超えるんだ』というマインドセットを持つ若い人たちの増やすことが重要だ」と述べておられます。

「災い転じて福となす」との

諺がございますが、このコロナ禍にあって、次代を担う青年たちの手によって、我が国の脱炭素技術の飛躍的革新が一日も早く実を結び、それらの技術を通して、わが国の発展はもとより、地球と人類の繁栄に、わが国が一層貢献することを切望して止みません。

同窓会の皆様には、平素から本校教育の充実発展に多大なるご支援をいただいておりますことに、心より感謝を申しあげます。

今年度は、本来であれば、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中に歓声が満ちあふれる年となるはずでありましたが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、生活様式や働き方の大変革など、私たちの生きる社会は急激な変化を余儀なくされました。学校教育においても、四高祭や修学旅行などの学校行事の中止や縮小を迫られ、部活動の大会も多くが中止となりました。そのよ

うな中で、SSH科学部、生物部、放送部が全国大会に、バトニング部、剣道部、美術部が東海大会・近畿大会に出場しました。出場した生徒に、同窓会より激励金を頂戴いたしましたこと、改めて感謝を申し上げます。

他にも嬉しいことがありました。11月、本校卒業生である作家の伊吹有喜さんが、『犬がいた季節』の出版記念イベントの前日に、本校を訪ねてくださいました。伊吹さんが四高で過ごした教室や図書館、犬のコースローがいた旧用務員室や美術室を廻り、30年ぶりに母校の空気に触れる中で、在学中の思い出をたくさんお話しくださいました。そのあとの本校在校生との懇談でも、たくさんのお話やアドバイスをいただき、在校生にとっても刺激的な有意義な時間となりました。

さて、今回のコロナ禍において、「感染拡大を防ぎながら経済を復活させる」というこれまで経験したことのない命題の解決を迫られています。このように正解があるのかどうかさえわからない命題と向き合うには、問題の本質をとらえ、知識と知恵をつなぎ合わせて新たな価値を生み出す力が必要です。SSHをはじめ、本校のすべての教育活動をおして、そのような力を育成し、これからの社会のリーダーとなる人材の育成に努めてまいります。

最後に、四高同窓会のみならずのご発展を祈念申し上げますとともに、今後とも母校への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶  
学校長 松岡 泰之



## ご挨拶

学校長 松岡 泰之

同窓会の皆様には、平素から本校教育の充実発展に多大なるご支援をいただいておりますことに、心より感謝を申しあげます。

今年度は、本来であれば、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中に歓声が満ちあふれる年となるはずでありましたが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、生活様式や働き方の大変革など、私たちの生きる社会は急激な変化を余儀なくされました。学校教育においても、四高祭や修学旅行などの学校行事の中止や縮小を迫られ、部活動の大会も多くが中止となりました。そのよ

うな中で、SSH科学部、生物部、放送部が全国大会に、バトニング部、剣道部、美術部が東海大会・近畿大会に出場しました。出場した生徒に、同窓会より激励金を頂戴いたしましたこと、改めて感謝を申し上げます。

他にも嬉しいことがありました。11月、本校卒業生である作家の伊吹有喜さんが、『犬がいた季節』の出版記念イベントの前日に、本校を訪ねてくださいました。伊吹さんが四高で過ごした教室や図書館、犬のコースローがいた旧用務員室や美術室を廻り、30年ぶりに母校の空気に触れる中で、在学中の思い出をたくさんお話しくださいました。そのあとの本校在校生との懇談でも、たくさんのお話やアドバイスをいただき、在校生にとっても刺激的な有意義な時間となりました。

さて、今回のコロナ禍において、「感染拡大を防ぎながら経済を復活させる」というこれまで経験したことのない命題の解決を迫られています。このように正解があるのかどうかさえわからない命題と向き合うには、問題の本質をとらえ、知識と知恵をつなぎ合わせて新たな価値を生み出す力が必要です。SSHをはじめ、本校のすべての教育活動をおして、そのような力を育成し、これからの社会のリーダーとなる人材の育成に努めてまいります。

最後に、四高同窓会のみならずのご発展を祈念申し上げますとともに、今後とも母校への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶  
学校長 松岡 泰之

同窓会の皆様には、平素から本校教育の充実発展に多大なるご支援をいただいておりますことに、心より感謝を申しあげます。

今年度は、本来であれば、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中に歓声が満ちあふれる年となるはずでありましたが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、生活様式や働き方の大変革など、私たちの生きる社会は急激な変化を余儀なくされました。学校教育においても、四高祭や修学旅行などの学校行事の中止や縮小を迫られ、部活動の大会も多くが中止となりました。そのよ

うな中で、SSH科学部、生物部、放送部が全国大会に、バトニング部、剣道部、美術部が東海大会・近畿大会に出場しました。出場した生徒に、同窓会より激励金を頂戴いたしましたこと、改めて感謝を申し上げます。

他にも嬉しいことがありました。11月、本校卒業生である作家の伊吹有喜さんが、『犬がいた季節』の出版記念イベントの前日に、本校を訪ねてくださいました。伊吹さんが四高で過ごした教室や図書館、犬のコースローがいた旧用務員室や美術室を廻り、30年ぶりに母校の空気に触れる中で、在学中の思い出をたくさんお話しくださいました。そのあとの本校在校生との懇談でも、たくさんのお話やアドバイスをいただき、在校生にとっても刺激的な有意義な時間となりました。

さて、今回のコロナ禍において、「感染拡大を防ぎながら経済を復活させる」というこれまで経験したことのない命題の解決を迫られています。このように正解があるのかどうかさえわからない命題と向き合うには、問題の本質をとらえ、知識と知恵をつなぎ合わせて新たな価値を生み出す力が必要です。SSHをはじめ、本校のすべての教育活動をおして、そのような力を育成し、これからの社会のリーダーとなる人材の育成に努めてまいります。

最後に、四高同窓会のみならずのご発展を祈念申し上げますとともに、今後とも母校への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶  
学校長 松岡 泰之

同窓会の皆様には、平素から本校教育の充実発展に多大なるご支援をいただいておりますことに、心より感謝を申しあげます。

今年度は、本来であれば、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中に歓声が満ちあふれる年となるはずでありましたが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、生活様式や働き方の大変革など、私たちの生きる社会は急激な変化を余儀なくされました。学校教育においても、四高祭や修学旅行などの学校行事の中止や縮小を迫られ、部活動の大会も多くが中止となりました。そのよ

うな中で、SSH科学部、生物部、放送部が全国大会に、バトニング部、剣道部、美術部が東海大会・近畿大会に出場しました。出場した生徒に、同窓会より激励金を頂戴いたしましたこと、改めて感謝を申し上げます。

他にも嬉しいことがありました。11月、本校卒業生である作家の伊吹有喜さんが、『犬がいた季節』の出版記念イベントの前日に、本校を訪ねてくださいました。伊吹さんが四高で過ごした教室や図書館、犬のコースローがいた旧用務員室や美術室を廻り、30年ぶりに母校の空気に触れる中で、在学中の思い出をたくさんお話しくださいました。そのあとの本校在校生との懇談でも、たくさんのお話やアドバイスをいただき、在校生にとっても刺激的な有意義な時間となりました。

さて、今回のコロナ禍において、「感染拡大を防ぎながら経済を復活させる」というこれまで経験したことのない命題の解決を迫られています。このように正解があるのかどうかさえわからない命題と向き合うには、問題の本質をとらえ、知識と知恵をつなぎ合わせて新たな価値を生み出す力が必要です。SSHをはじめ、本校のすべての教育活動をおして、そのような力を育成し、これからの社会のリーダーとなる人材の育成に努めてまいります。

最後に、四高同窓会のみならずのご発展を祈念申し上げますとともに、今後とも母校への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶  
学校長 松岡 泰之

同窓会の皆様には、平素から本校教育の充実発展に多大なるご支援をいただいておりますことに、心より感謝を申しあげます。

今年度は、本来であれば、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中に歓声が満ちあふれる年となるはずでありましたが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、生活様式や働き方の大変革など、私たちの生きる社会は急激な変化を余儀なくされました。学校教育においても、四高祭や修学旅行などの学校行事の中止や縮小を迫られ、部活動の大会も多くが中止となりました。そのよ

うな中で、SSH科学部、生物部、放送部が全国大会に、バトニング部、剣道部、美術部が東海大会・近畿大会に出場しました。出場した生徒に、同窓会より激励金を頂戴いたしましたこと、改めて感謝を申し上げます。

他にも嬉しいことがありました。11月、本校卒業生である作家の伊吹有喜さんが、『犬がいた季節』の出版記念イベントの前日に、本校を訪ねてくださいました。伊吹さんが四高で過ごした教室や図書館、犬のコースローがいた旧用務員室や美術室を廻り、30年ぶりに母校の空気に触れる中で、在学中の思い出をたくさんお話しくださいました。そのあとの本校在校生との懇談でも、たくさんのお話やアドバイスをいただき、在校生にとっても刺激的な有意義な時間となりました。

さて、今回のコロナ禍において、「感染拡大を防ぎながら経済を復活させる」というこれまで経験したことのない命題の解決を迫られています。このように正解があるのかどうかさえわからない命題と向き合うには、問題の本質をとらえ、知識と知恵をつなぎ合わせて新たな価値を生み出す力が必要です。SSHをはじめ、本校のすべての教育活動をおして、そのような力を育成し、これからの社会のリーダーとなる人材の育成に努めてまいります。

最後に、四高同窓会のみならずのご発展を祈念申し上げますとともに、今後とも母校への変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶  
学校長 松岡 泰之



新型コロナウイルスに翻弄される一年であった。昨年8月に開催されるはずの東京オリンピックは一年延期され、果たして今年開催できるのか世間の耳目を集めている。▼同窓会として例外ではない。4月の常任理事会は書面表決の形で実施したものの、理事会と総会は、国が発出した緊急事態宣言を受けて延期を余儀なくされた。その後、第2波の収束を待って、昨年10月に理事会を、11月に総会を開催することができた。しかし、総会は講演やパティ抜きで実施せざるを得ず、参加者も少なく、寂しいものとなった。▼まさかこのような事態が日本で起ころうとは、予想だにできなかった、というのが正直なところである。よく言われるように、もつと毒性の強いウイルスならば、これほど感染が拡大しなかつたに違いはない。感染者が重篤化し、動けなくなるからである。ところがこのウイルスでは、感染しても症状が出ない人が相当数に上り、ウイルスを撒き散らす結果となっている。何ともしたたかなウイルスというほかない。▼ワクチンの接種が日本でももうすぐ始まり、このウイルスに関する知見も日々集積されていると聞く。本格的な治療薬が開発されるのもそう遠くないであろう。新型コロナウイルスを克服することができるのも間もなくのことであろうと確信している。▼しかしながらである。意外に脆弱だった日本の医療体制など、見えた課題は計り知れなく多い。コロナを単なる禍にしてはならないと

思う。  
(青山)

## 令和3年度 総会のご案内

令和3年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

○日時

令和3年6月5日(土)  
13時30分受付/14時00分開会

○場所

四日市商工会議所  
1階 ホール

○記念講演(総会后)

〈講師〉

中部大学持続発展・スマートシティ国際  
研究センター長、ローマクラブ本部執行  
役員・日本代表、前世界交通学会会長

林 良嗣 氏

(四高43年度卒)

〈演題〉

「気候危機と感染症パンデミックに見舞われる『人新世』-迫られる経済・都市・交通のQOL転換-」

終了後

○抽選会のあと記念撮影

○付 記

○会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。  
○講演につきましては、一般に公開しております。お知り合いで、ご興味のある方は、ご案内下さい。

○問合せ

四日市高校同窓会館  
TEL・FAX 059-365-3631  
Eメール sikoukai@m2.cty-net.ne.jp  
http://www.pcs.ne.jp/~shiko/

令和2年度  
四日市高校同窓会  
総会報告  
2020年11月21日  
じばさん三重

令和2年度総会は、本来なら6月第一土曜日に開催されるはずでしたが延期され、11月21日（土）、じばさん三重に於いて開催となりました。参加は21名に留まりました。因みに常任理事会は4月に書面評決にて、理事会は10月に行われました。

伊藤会長からは日ごろの同窓会活動協力へのお礼と今後お願い、松岡校長からは母校の現状やコロナ対策等を映像を交えてお話しいただきました。続いて田中常任理事を議長に議事審議が行われ、つつがなく会は終了しました。

尚、予定していました林良嗣先生の講演は来年度総会で行います。また、ティーパーティは中止させていただきました。

議事

- 第一号議案 令和元年度事業報告
  - 第二号議案 令和元年度収支決算
  - 第三号議案 令和2年度事業計画
  - 第四号議案 令和2年度予算
  - 第五号議案 役員改選
- 以上を審議、承認されました。



名	職	出身校	年齢	性別	任期	役員	
						常任理事	顧問
山本	会長	山本	55	男	4年	伊藤	勸作
西脇	副会長	西脇	52	男	4年	西脇	壽郎
中島	顧問	中島	42	男	4年	中島	泰浩
杉本	顧問	杉本	42	男	4年	杉本	雅俊
種橋	顧問	種橋	43	男	4年	種橋	潤治
青山	顧問	青山	45	男	4年	青山	晶
藤原	顧問	藤原	54	男	4年	藤原	和彦
丹羽	顧問	丹羽	40	男	4年	丹羽	徹
岡田	顧問	岡田	40	男	4年	岡田	卓也
小菅	顧問	小菅	42	男	4年	小菅	弘正
森田	顧問	森田	42	男	4年	森田	三重子
鈴木	顧問	鈴木	28	女	4年	鈴木	俊二
熊澤	顧問	熊澤	29	男	4年	熊澤	誠一郎
松岡	顧問	松岡	42	男	4年	松岡	泰之
富田	顧問	富田	51	男	4年	富田	常豊
小林	顧問	小林	42	男	4年	小林	典子
前田	顧問	前田	42	男	4年	前田	憲一
佐久間	顧問	佐久間	42	男	4年	佐久間	基
大森	顧問	大森	37	男	4年	大森	智之
奈須	顧問	奈須	37	男	4年	奈須	庄平
小林	顧問	小林	37	男	4年	小林	春美
森	顧問	森	37	男	4年	森	智
黒木	顧問	黒木	55	男	4年	黒木	誠
森	顧問	森	51	男	4年	森	公平
伊藤	顧問	伊藤	50	男	4年	伊藤	重和
井村	顧問	井村	48	男	4年	井村	正史
田中	顧問	田中	47	男	4年	田中	真司
伊藤	顧問	伊藤	45	男	4年	伊藤	利造
山下	顧問	山下	39	男	4年	山下	久三
長谷川	顧問	長谷川	38	男	4年	長谷川	川正統
金子	顧問	金子	37	男	4年	金子	和生
水谷	顧問	水谷	36	男	4年	水谷	益彦
上野	顧問	上野	35	男	4年	上野	公雄
八木	顧問	八木	34	男	4年	八木	統治
小津	顧問	小津	33	男	4年	小津	博嗣
北川	顧問	北川	31	男	4年	北川	利美
服部	顧問	服部	30	男	4年	服部	八州宏
服部	顧問	服部	27	男	4年	服部	幸男
山本	顧問	山本	25	男	4年	山本	将子

一般財団法人四高会 令和元年度 収支決算書

(平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日)

科目	摘要	決算額	予算額
I. 収入の部			
① 事業収入	会館使用料	58,500	50,000
② 受取寄付金収入	同窓会より	2,300,000	2,300,000
③ 雑収入	施設利用料、利息等	32,559	16,266
合計		2,391,059	2,366,266
II. 支出の部			
① 事業費・管理費支出		1,196,984	1,679,000
会議費支出	会議等	19,330	80,000
講演開催費支出	講演会	121,496	120,000
地元協力費支出	十四川の桜管理	50,000	50,000
消耗品費支出	コピー機、事務諸経費	50,758	200,000
光熱水料費支出	電気、水道、ガス	400,511	420,000
保険料支出	火災保険料	23,510	25,000
租税公課支出	固定資産税、県・市税等	425,600	500,000
清掃費支出	環境整備等	90,359	120,000
支払負担金支出	商工会議所会費	14,000	14,000
雑費支出	証明書発行等	1,420	150,000
② 投資活動支出		1,000,000	1,000,000
修繕引当資産取得支出	会館修繕目的	1,000,000	1,000,000
③ 予備費支出		0	100,000
合計		2,196,984	2,779,000
III. 当年度収支差額		194,075	△ 412,734
IV. 前年度繰越収支差額		693,734	693,734
V. 次年度繰越収支差額		887,809	281,000

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円

次年度繰越収支差額	887,809
-----------	---------

修繕引当資産(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円

前年度末	3,700,375
今年度積立金	1,000,000
利子	315
今年度末	4,700,690

四日市高校同窓会 令和元年度 収支決算書

(平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日)

項目	細目	摘要	決算額	予算額
① 同窓会収入				
入会金	同窓会費	全日制 1,800円×1,018人	8,049,400	8,222,000
		終身(20000)	1,832,400	1,872,000
		10年(10000)	306	6,120,000
		5年(5000)		0
		3年(3000)	1	2,000
② 雑収益		1年(1000)	95	95,000
③ 前期繰越金		寄附金、利子	6,217,000	6,350,000
			78,117	3,327
			1,424,673	1,424,673
合計			9,552,190	9,650,000

項目	細目	摘要	決算額	予算額
① 運営費				
給事通	与務信	給料、手当、慰労金	1,468,272	1,600,000
		印刷、事務用品等、諸経費	1,178,000	1,200,000
		電話、郵便、インターネット関連費等	132,735	200,000
② 会議費			157,537	200,000
総理常	理事会	会場費、懇親会費、案内状	126,124	250,000
		会場費、会議費、案内状	70,794	180,000
		会議費	49,930	60,000
③ 事業費			5,400	10,000
会報	学校活動助成金	会報印刷及び発送費	2,806,836	3,300,000
		激励金・語学研修補助等	1,051,661	1,100,000
		120周年記念事業費	950,864	1,200,000
④ 四高会拠出金	特別会計積立金	記念パーティー、ホームページ改修	804,311	1,000,000
		(一財)四高会への寄付金	2,300,000	2,300,000
⑤ 積立金			1,600,000	1,600,000
⑥ 予備費			0	250,000
⑦ 次期繰越金			1,250,958	350,000
合計			9,552,190	9,650,000

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円

次年度繰越金	1,250,958
令和元年度卒業生 同窓会費 預り金	6,001,000
今年度末	7,251,958

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円

前年度末	56,212,971
今年度積立金	1,600,000
利子	4,496
今年度末	57,817,467

# 創立120周年記念事業報告

## ○同窓会館の外壁塗装

卒業生にとって心の故郷である母校への愛着心を何らかの形で残したいという思いから建てられましたが四高の南に位置する同窓会館です。当初、建設地の選定、建設費等問題は山積でしたが、同窓生のご援助・地元企業のご協力等をいただき、創立70周年(昭和44年)に間に合うよう完成しました。続いて創立100周年時に同窓生より寄せられた多大の記念の品々を展示できないかと検討した結果、2階会議室を大改修し、現在のメモリアル・ギャラリーをオープンしました。例年母校入学生には見学してもらい母校の歴史を振り返ってもらっています。その後外壁周りの傷みも進み、一般会計から数年かけての修理工事を計画しましたが、「一気に進めることができないか」との会長の意見で、調べたところ修繕引当資金としての処理が可能で、今年度(令和2年度)の予算を執行し、当初の予定から6年が経過しましたが、8月に着工、10月には立派に外装修繕が完了しました。付け加えますれば当初予算の見積もり後、2階バルコニーの防水に劣化が見られ、予算範囲に収まることとが分かり同時に防水工事も着工し完了しました。今後も会館の維持にはそれなりの費用が必要となりますが、会員の皆様のご理解をいただき、維持管理を務めなければと感じています。

西脇

## ○同窓会館名簿の発行

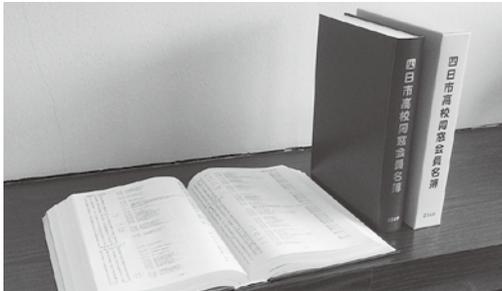
創立100周年記念で発行した名簿以来20年を経て、今回新しく同窓会館名簿を令和2年6月20日に発行することができました。発行部数は3000冊、頒布価格が4700円でした。個人情報保護の観点から名簿の販売は同窓生に限定されており、すべて予約のみの販売でした。したがって、現在残部は全くありませんので、ご了承ください。

青山

## ○ホームページのリニューアル

創立110周年記念事業として立ち上げた同窓会ホームページでしたが、この度創立120周年を記念し、デザイン等を一新しました。お知らせや報告事項のみならず、各学年・各地四高会の掲示板としてもご利用いただけるようにと期待しております。また、ご住所の変更やお問い合わせ等もトップページ右上から簡単にご連絡いただけるよう構成してありますので、お気軽にご連絡ください。懐かしい高校時代と現母校同窓会とのパイプ役となればと思います。

小林の



## 令和2年度会費納入者

(敬称略)

- 中嶋さつき、服部舞子、福田暖、古市勝寛、増井日南莉、松岡舞奈、松本健汰、森口晴翔、山岡清蓮、吉田優作、石川弥幸、伊藤白貴、伊藤史弥、伊藤未夢、井上雄斗、入山大雅、上村恵里奈、岡部和真、葛山智也、加藤慎一朗、木下希美、齋藤流馨、笹田幸太郎、佐藤杏香、鈴木優真、須原剛、千葉みよ、中村武稜、野呂美空、橋爪遼、服部圭汰、羽場祐斗、樋尾南美、平田凌雅、保坂佳吾、前川朝陽、前川孔志、前田百花、水谷由悟、毛利好太郎、大和祐輝、山本愛子、吉澤諱、若林和樹、渡辺大翔、池田香野、石田敬洋、上村彩依、白田慶太、岡田萌々花、小野菜摘、片岡ほの花、河西美優、小久保海飛、後藤幸作、嶋田彰穂、杉浦雅崇、砂田直輝、土屋翔大、野崎陽斗、濱野喜史、林奈奈美、番場詩月、尾藤弓子、平林佑基、古市椋亮、前川太志、松岡由起、南川拓巳、森亮太、森岡大登、山川凜太郎、山本航平、若林直人、和氣吾朗、鷺田皓太郎、市川忠樹、伊藤光介、伊藤龍要、伊藤陽祐、江上蓮、大島希海、大橋未菜実、岡田梨里亜、岡村明知、小川億、折戸花帆、春日浩輝、加藤麻佑子、河野綾太、久保之慧、栗山充樹、小林伊織、島田尚輝、城田貞良、竹中悠一郎、田邊小春、椿田佳里奈、寺本裕紀、徳本拓也、中西一貴、長谷明音衣、藤垣優花、藤田莉華、松田章弥、丸本紗羽、水谷耕大、水谷泰斗、森岡柚衣、山口瀬奈、山本光騎、山本崇人、吉持幸毅、石山宙河、市川穂純、伊東遼馬、大面花、大矢健世、小川和真、奥野早代、加藤大貴、川口瑛大、工藤優花、坂倉耀、佐藤颯基、島田将成、杉浦さくら、高野莉子、仲代史玖、西川遼、西尾隆希、丹羽友宏、萩原颯人、林智也、日野修斗、平野古奈、別所輝、柵木仁美、松岡佑典、水谷日南、水野早稀、三村友里菜、三輪皓大、村山心穂、森遠汰郎、森下あゆ、矢田大地、山崎優奈、山本陽翔、ラレス江莉奈、和田志穂、黄前芽依、梶原知茂、狩野陽、小島千聖乃、小瀬古周哉、後藤歩実、小林幹英、坂田大輔、田口桜子、多湖友香、田中理藍、出口花、豊田勝智、中崎航太、野呂亮太、林凛華、林瑠那、藤田玲那、宮本幸太郎、石澤遼太郎、大島一途、倉田知輝、黒柳春気、館洗美、土洞匠太、中尾日向子、中嶋一貴、西村香穂、丹羽涉太、伴明香里、堀内貴矢、前田貴光、松岡昇、松岡央悦、森智哉、川北高実、川口翔

### 会費納入のお願い

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお申し込み申し上げます。

◆納入金額  
終身会費 2万円  
毎年納入の場合 年会費 1千円

### ◆納入方法

- ①郵便振替  
口座番号 008201816367
- 三重県立四日市高校同窓会  
※専用の振込用紙がありますので  
ご連絡下されば送付いたします。
- ②現金書留  
会館迄ご送金下さい。

《お問い合わせは同窓会館まで》

059-36513631  
sikoukai@m2.city-net.ne.jp

# なんとしても九州へ行きたい

北岡 孝義

（四高30年度卒）

私たちの修学旅行は、京都発鳥栖行の夜汽車の旅から始まった。電燈に浮かぶ「きょうと」の駅名標識が卒業アルバムに残っている。あれからもう66年。

なんとしても九州へ行きたいと、自ら修学旅行委員に手を挙げてがんばった結果だった。当時、県が認めていた旅行日程は4泊5日だった。だから旅の

口（旅行社の人）は、「汽車や船に乗りに行くだけの旅になる」と、半ば反対の意を込めて警告してくれていた。否、それでも行くんだと私は言い張った。なぜ？と問われれば、遠い九州には一生行けないだろうと思いついていたからだ。

私たちを乗せた夜汽車は、山陽本線を直走り、関門トンネルを潜り、翌朝、博多駅に滑り込んだ。福岡では市内見物をし、西鉄電車で大牟田へ。大牟田港から島原港へは有明海を横切る船の旅。そして貸切バスで雲仙温泉へ。気持ちの高ぶる旅の夜。どう過ごしたのか、定かな記憶はもう失われてしまった。

翌朝、仁田峠のすばらしい展望を堪能したあと島原港から三角港へ。熊本までは汽車の旅。熊本では西郷軍が攻めに攻めても落とせなかった、あの熊本城で歴史に想いを寄せたあと、阿蘇の大カルデラを横切る国鉄豊肥線の普通列車で別府に伺った。阿蘇山は車窓から噴煙を眺めるだけだった。別府では、高

崎山のお猿さんとも遊んだし、別府名物・地獄めぐりは驚きの歓声をあげどおしだった。

そして、旅のフィナーレとなる瀬戸内海の船旅が始まった。2千トンほどの小さな客船だったと記憶しているが、生まれて初めての船旅は、夜の瀬戸内海の風景とあわせて感動的な時間であった。10数時間の船旅の終点は、大阪の天保山の港。

旅のプロの警告どおりの旅であったが、私（「私たち」とは言うまい）にとっては、大大満足の5日間の旅であった。

余談をちよつと。翌年3月、四高を卒業した私は、旅行社に就職しました。そして、毎年、九州を訪れる生活が始まりました。高校生のころの九州との距離感はどこかへ飛んでいつてしまいました。これも人生の機微のひとつと思う今日のごろです。



## オール四日市飲食店応援「さきめし券」プロジェクト

森 修平

（四高48年度卒）

昨年4月、コロナ禍が急速に拡大する中、私が会長を務める四日市商店連合会は、四日市の飲食店を支援する目的でクラウドファンディングを活用した「さきめし券」プロジェクトに取り組みました。

その内容は、応援したい店舗の食事券を先に購入して頂く事で、支援して頂く方に、食券の40%分を上乗せしてご利用頂けるチケットの事です。

この「さきめし券」は四日市市が40%分を負担してくれているため、飲食店側にも、ご支援頂いた方々にも利点があるの一番の売りでした。

元々は、実際にあるお店が「先払い券」を発行した処、上手く機能していませんでした。単独店ではなく、商店連合会として、飲食店をまとめ上げ、クラウドファンディングで募れば上手く回るのではないかと。そう考え、

# 往来

## 出会いに感謝

中條 智仁

（四高H16年度卒）



平成17年3月、卒業生全員が涙したと噂される答辞を読んだあの日から16年が経過した。四高での思い出は多々あるが、一番はラグビーとの出会いだろう。在校中ラグビーに熱中し、大学進学後もラグビー部へ入部。素晴らしい仲間に出会った。ラグビーを通して出会い、共に戦った仲間達は社会人になった今も刺激となり支えとなっている。

四高を卒業後は防衛大学校へ進学し、航空自衛隊へ入隊。入隊後は、戦闘機パイロットとして日々国防を担う任務に励んだ。F-15戦闘機に乗り始めて

数年が経ち、ブルーインパルスのパイロットとして着任することが決まった。夢のブルーインパルス2番機パイロットとして任務にあたる中、更に大きな夢が叶った。2019年ラグビーワールドカップ開会式で記念飛行に参加し、大空に不撓不屈の想いを込めた「フェニックス」と、ラグビー日本代表の象徴である大きな「桜」を描いた。高校入学時からラグビーに邁進していた私にとっては、目頭の熱くなる感動だった。その後、2020年3月に行われた東京オリンピック・パラリンピック聖

## 海外での再会の喜び

田中 昭男

（四高H16年度卒）



「君は、もしかすると四日市高校の卒業生ではないのかな？」私が中国・上海に駐在員として赴任してから半年が過ぎた2018年1月、上海の中心街にある揚州料理店での出来事です。卒業と同時に地元を離れて13年間、四高との接点がほとんどなかった私がキョトンとして

「やっぱりそうだ。君の話ぶりで行かると。部活の顧問を覚えているかい？」声の主は四高の国語科教員をされていた宇野先生(47年度卒)。確かに宇野先生は部活の顧問をされていたが、私は当時、数えるほどしか顔を出していま

せんでしたし、宇野先生の受持ちの学年には属していませんでした。そして何より、四日市から遠く離れた上海にいるので、そのような中、10年以上前の一生徒に過ぎない私を瞬時に見抜いてしまうとは！私は自分自身を恥ずかしく思うとともに、教師の目と耳というものにすっかり感服してしまいました。

退職後に上海で日本語教師をされているという宇野先生に、その後、私が2020年7月に帰国するまでの間、上海四高OB会（同窓会報第77号の宇野先生の寄稿参照）や上海三重県人会（百五銀行上海駐在員事務所主催）で集うほか、一緒に

火到着式の記念飛行に携わり、ブルーインパルスパイロットとしての任務を全うした。そして今、石川県の航空自衛隊小松基地にて、F-15戦闘機に搭乗し、再び国防の任にあたっている。ここまでの道のりを思い返すと、四高で初めてラグビーボールに触れた私が、当時の顧問である、恩師の諸岡先生に導かれて得た【INTEGRITY】【PASSION】【SOLIDARITY】【DISCIPLINE】【RESPECT】の5つのラグビー精神は、自分の生涯に大きな影響を与えたと強く思えてならない。これからの人生においてもその精神は揺るがないだろう。勉学、部活動において素晴らしい先生や友との出会いは人生を変える。それが四高にはあると胸を張って言いたい。

食事をしたり、ジムで汗を流したりと、在学中を上回る時間を共にし、懇意にいただきたま

ちなみに上海には、約4万人の在留日本人、約1万の日系企業拠点、約30の自治体拠点、高等部を含む2校の日本人学校、世界最大の日本総領事館など世界有数の日本人コミュニティがあり、都道府県人会や大学・高校単位の同窓会も活発に活動しています。同郷・同窓という共通点さえあれば、すぐに親しくなれるのは海外ならではの魅力です。そのような上海で過ごした3年間は、私にとって、改めて地元や母校を思い起こし、そして幸運にも再会した恩師との交流を深めることができました。宇野先生、今度は日本でお目にかかれる日を心待ちにしていますね！

四日市市の協力のもと、四日市の飲食店であれば、基本的に参加可能を謳い募ったというのが「さきめし券」の発端でした。結果的に市内550もの店舗様に追加いただきました。

また、当初「さきめし券」の目標額を500万円で設定しておりましたが、一日も経たずに達成し、私たちの想定をはるかに超えて、1ヶ月で約3億円もの賛同が得られました。

しかも購入いただいた方々は、その大半が四日市内の方でした。四日市を支えたい。コロナの影響の中、少しでも力になりたい。そういった市民の思いやりの声が今回の「さきめし券」という形で、いち早く実行

されメディアを通して全国に四日市商店連合会の取組みとして、広く紹介されました。

想定外の反響から、膨大な券の発行・仕分け・参加店への支援金の振込み等、作業の日々が続きましたが、期限の6月中旬までに無事終わることが出来、7月からの利用が来ました。このプロジェクトにご支援いただきました皆様に心より御礼を申し上げます。

これからの新型コロナの影響で先が見通せない日々が続く中、四日市が少しでも元気を取り戻せるよう、頑張ってくださいと思います。

# 今、そしてこれから

酒井 由里子

(四高55年度卒)

コロナ禍の昨年、不覚にも骨折し入院するはめになりました。家族すら面会できない状況の中、同部屋の方が四高の先輩と判明、そのご縁で今回の寄稿となりました。

私は大学を卒業後、好きが高じてヤマハ音楽教室講師となり、現在に至ります。高校時代、濱崎先生の自由発表の機会に、骨とう品のようなエレクトーンを演奏しほめていただいたことがあります。大好きな音楽とエレクトーンという楽器を通じて沢山の生徒と関わってきました。演奏することで、自分を表現することや、仲間と一緒に演奏することの楽しさを知ってほしいという思いで指導していま

す。指導というよりは、生徒と一緒に音楽を楽しんできたという方が正しいかもしれません。そんな中、昨年は長年講師をしてきて初めての経験をしました。コロナウイルスの流行によりレッスンの休講やイベントの中止や延期をせざるを得なかったのです。レッスンを再開されても、飛沫感染予防のためレッスン形態を変えなければならず、イベントも様々な制限の中での開催になり、それと共にオンラインレッスンやリモートでの勉強会等、新しく覚える事だらけ、手探り状態……緊張と不安でいっぱいでした。一旦は流行がおさまりかけた

# 人物



## 難しい質問

柳川 春樹

(四高H24年度卒)

私は9月から10月の2週間、四高で教育実習をさせて頂きました。感染症の影響で、全ての学校行事に影響が出る中、受け入れて下さった先生方と四高生の皆さんには感謝しかありません。実習中、心を揺さぶられることが多くありました。想定していた流れから外れ、焦って強引に授業を打ち切るという失敗のあと、改善方法を挙げつつ元気づけてくれる先生方の優しさに触れた気がして、二相室で涙目になり、夕食時に泣き、入浴中に号泣しました。また、朝早くの電車内で、担当クラスの生徒から声を掛けられ、何て爽や

かな朝なんだと感激しました。授業後に他の実習生から、チョコの粉でマスクが汚れていることを指摘されたときは、授業に熱中できたことの勳章だと思つたことを覚えています。実習中、ある生徒から『生きる』とはと問われました。咄嗟に「考えることですかね」と応えましたが、もつと言葉を尽くして議論したかったと少し後悔したりします。高校時代は、人の予想を少しだけ裏切つて驚かせたいなどと思つていました。ですから、卒業アルバムに貰つた『四高生って感じ!』というコメントは、嬉しい反面

少し心に刺さりました。大学では、自身よりも他者のことを助けようと行動し、時には成功し、時には疲れていく部活の同期を見、私もそういう経験をして、人との折り合いって何だろうかと悩み続けています。振り返れば、考えることだけでなく、感情や行動も思い出しに直結していました。頭や心、もしくは体を動かす、程よく休ませることが『生きる』ことの一面か、と今でも結論は保留しています。

「数学に、少しでいいから前向きに生きてほしい」というのが、数学を教える立場になったときの私の願いです。四高の授業は、ICT導入などで大きく様変わりし続けていました。厳しい時世の中で、生徒も先生方も挑戦していることを肌で感じました。願いの実現のために挑み続け、生徒が挑戦できる場を整えられる教員が私の目標です。

## 四高通教が人生の転換点



樋口 民生

(通信制32年度卒)

通信教育部(旧制度)に私が入学した昭和29年当時は入学式もなく、事務室におられた主事の片岡卯三郎先生に一人でお会いして入学テストと学習方法の説明を受けた。

が励ましあえる友達に会える機会も増えた。文芸部もできて、ガリ版刷り文集が届いた。修学旅行として、京都奈良方面へ先生方と一緒したこと

も、嬉しい思い出である。昭和33年2月の第8回卒業式には、東洋紡勤務の川口さん(5年間履修)、阿山村役場勤務の橋本さん(7年間履修)、左官職人の私(4年間履修)が出席できることとなり、新聞でも「東海北陸地方で初めて、通信教育のみの三人に卒業の春、そろって一六科目に優」との報道がなされた。早期に文部省指導に対応して

通信教育部(旧制度)に私が入学した昭和29年当時は入学式もなく、事務室におられた主事の片岡卯三郎先生に一人でお会いして入学テストと学習方法の説明を受けた。

家業の左官職人をしていた私は、教科の単位習得認定試験も仕事のできない雨の日が多かったが、片岡先生が「今日は朝から雨なので君が学校に来ると思つていたよ。」と笑顔で一人だけの場所を用意してくださった。労働後の学習は苦労であったが、入学1年後からは通信制課程として位置づけられた体育の授業も始まり、月に1回である

26歳で国家公務員中級試験(大学卒業程度)に合格し、左官職人から転身して国家公務員として、名古屋、福井市、浜松市、津市で勤務した。定年後は名古屋に住み、職務経験を生かした形で75歳まで民間会社で働いた。昭和初期生まれの人生は、多くが多彩であるが、私の人生の転換点は、学ぶことの大切さを体感し、強く後押ししてもらった四日市高校通信制であったと感謝している。

リレー随想

（第24回）

洋上の出会い



森 拓也（四高45年度卒）

「森センセイは四日市のご出身なんですか?」「ええ、自宅は和歌山県の片田舎ですけど、実家は四日市ですよ」「ひょっとして四日市高校?」「そうですけど……」「私も四高なんです」「エエ?」

さあここからが大事だ。私よりは明らかに年上に見えるが、妙齢?のご婦人に何年卒ですか……なんて聞いて気を悪くされても困る。

私がNHKの特番で商船三井客船のクルーズ客船にっぽん丸の1日船長をさせてもらったのが縁で、自然科学の講師として乗船するようになって30年近く。おかげで北はアラスカから南はタスマニアまで、実に様々な所へ行かせてもらった。最も多いのが小笠原クルーズと、私の専門分野である南太平洋のミクロネシアやメラネシアを訪ねる南洋クルーズだが、長い洋上生活の中で思いがけず同窓生に出会うことがままある。

残念ながら乗船客のほとんどが私と違って経済的に余裕のある?年配のおじさまおばさまばかりなので、未だに後輩に出会ったことはないが、それでも年の近い先輩だったりすると話が一気にタイムスリップする。

といっても毎回400人近くのお客さまが乗

っているのだから、普通なら食事テーブルが一緒になったり、船内イベントで仲良くなったりしなければなかなか出身高校までは話が進まないのだが、そこはソレ、乗船中に毎日届けられる船内新聞には、講師のプロフィールがしっかりと紹介されている。

「ボク、まだ校歌も“希望の門”も歌えますよ」「すごいわあ。私なんか校歌だっとうろ覚えですもの」

なあと、高校生活3年間、音楽部に居たおかげなのだが、今でもふとしたはずみで「文に聡きは武に強し、北勢四高の健男児……」という応援歌の一節が口をついて出てくることがある。

「森センセイ、今晚夕食をご一緒していただけませんか?」「僕はセカンドシーティングですけど大丈夫ですか?」「ええ、私も2回目なので」

幸いどちらも2回制のメインダイニングのディナーが遅めの2回目だったので、入り口で待ち合わせ、8人掛けの大テーブルをリクエストした。

「四高にカンパイ!」その夜は四日市高校同窓会にっぽん丸臨時支部?の夕食会で盛り上がり、気が付くとメインダイニングに残っていたのは私たちだけだった。



にっぽん丸



小笠原クルーズでウミガメの放流

『ミッドナイト・バス』(2014)、『彼方の友へ』(2017)、『雲を紡ぐ』(2020)の3作品で直木賞候補になった四高同窓生の伊吹有喜さんが、四高にかつて実際に居た「コーシロー」という犬を題材にした小説『犬がいた季節』を刊行したことから、11月3日(火)の文化の日に行元出版社、双葉社の企画により四日市市商工会議所でトークイベントが開催されました。伊吹さんは令和元年度の同窓会総会においても、創立120周年記念の講演をしていただいた、同窓会とも縁の深い方で

す。 トークイベントの前日11月2日(月)には、来県されたその足で懐かしい母校を30数年ぶりに訪問され、新作の中の犬の「コーシロー」がいた場所や、作品の舞台となった美術室はじめ、本校の様々な場所を見て回られました。また最後に訪れた図書館では直前の呼びかけに急遽集まった四高生有志5名と懇談し、懐かしい母校の思い出に浸っていかれました。 11月3日のトークイベントの開催に当たっては、事前に双葉社より四日市高校に現役四高生

の参加についての打診があり、5名程度の人選の依頼がありました。『犬がいた季節』は四高をモデルにした「八稜高校」で、実在していた犬の「コーシロー」の視点を通して、「恋」や「旅立ち」や「決意」など、18歳の微妙な年ごろの揺れ動く心理状態を描いた、普遍的な青春小説であるため、実際の現役高校生の読後の感想など、生の声を交えたトークイベントにしたいという事で、伊吹さんの母校である四高に声がかかったという事です。 公募により参加することにな

直木賞候補作家 伊吹有喜さん

トークイベントについて

第12回 銀城親睦ゴルフ大会

第12回四高銀城親睦ゴルフ大会は、去る11月5日(木)四日市カントリー倶楽部で開催されました。当日は絶好の秋晴れに恵まれ、53名のご参加(内女性3名)を頂き競技はダブルペリア方式で行われました。なお、優勝者は下記の通りでした。 また、第13回ゴルフ大会は令和3年11月4日(木)に四日市カントリー倶楽部で開催いたします。奮ってご参加ください。

- 女子の部**  
今谷 香さん (S47年度卒)  
(51+53=104-26.4=77.6)
- 男子の部**  
水谷 真さん (S55年度卒)  
(48+47=95-26.4=68.6)



男女優勝者と会長

事務局からのお願い

ご住所変更の折には会館まで是非ご一報ください。 電話番号は 059-365-3631、メールの場合は sikoukai@m2.cty-net.ne.jp もしくは同窓会ホームページ右上の「住所変更・お問い合わせ」からです。どうぞよろしくお願いいたします。 また、HPに掲載ご希望のお知らせ等がありましたら、お気軽にご連絡ください。

# 学園だより



## 深緑の場所

3年9組 曾我 萌々子

ある時、友人に四日市高校のスクールカラーは緑色であることを教えてもらったことがありました。これは、四日市高校の応援歌に由来するものですが、私には四日市高校で過ごした日々とは、まさに深緑の中にあるかのようなものだったと思えてなりません。

私にとっての高校は、人が清涼な自然に触れた時のように、ありのままの姿でいられる場所でした。それは、どう向き合えばいいのかかわからず、それまでなら目を背けていた想いや葛藤を共有してくれる友人たちがいたからだと強く思います。そのような友人たちの存在はわたしにとってまさに大きな精神的支えであり、そして、自身の内面や感情を外部に昇華できる空間を得られたことは大きな喜びでした。

また、自分にはない素養を備えた同世代の友人たちに対して、尊敬の念にも似た感情を持つことが度々ありました。そのような関わりの中で自身の視野は格段の拡がりを見せ、世界への価値観に深淵さを持たせるきっかけとなってくれました。自分自身の確固たる基盤と柔軟性を持ちながら生きること。これは能動的に意識しなければ得られない感覚であり、それらのバランスは実に繊細なものであると思うのです。この感覚に気づかせてくれたのが友人たちであり、その感覚の具現ともいえるのが彼らの姿でした。

そして、勉学に励む過程では、自分が今後学んでいきたい学問とは何なのか、自分が進みたい道とはどんなものなのかを考える場面が数多く有りましたが、様々な学問領域とその可能性を示唆して下さったのが先生方でした。学問領域とはまさに一本一本の木々であり、四日市高校とはそれらの中から、大学という学び舎で何をしたいのかを探る場でもあったのだと思います。

私はまだ四日市高校という深緑の森から一本の幼木をもらったに過ぎないのです。3年間の経験と考えたこと、教えていただいたことを糧としながら、さらなる学びを深め、自分自身の幼木を深緑の木に育てていきたいと思っています。

## 「科学の甲子園」出場 に向けて

2年7組 山村 修平

私たちは、昨年10月18日、鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスで行われた三重県科学オリンピック大会に、SSH生物部1名、SSH科学部1名、2年生有志6名の計8名からなるチームで出場しました。

私たち8名は、普段は別々の活動をしているのですが、10月初旬に科学オリンピック出場のために集まりました。チームの目標は、優勝。そして、科学の甲子園出場です。本番に向けて様々な準備を重ねました。

大会では、筆記競技と実技競技があり、筆記競技は、数学、物理、生物、化学、地学、情報の6科目を8名が協力して90分間で、実技競技は、物理、生物、総合をそれぞれ3名ずつで競いました。出題される内容は難しく苦しい場面もありましたが、協力して最善を尽くし、その結果、参加13校の中で優勝することができました。

「科学の甲子園」は3月19日～22日の4日間、つくば国際会議場、つくばカピオで行われ、各都道府県の優勝校が参加する予定です。

三重県大会で学んだことを生かしつつ、さらに実力をつけ、当日は三重県代表の名に恥じぬよう、全力を尽くしたいと思います。応援宜しくお願いします。



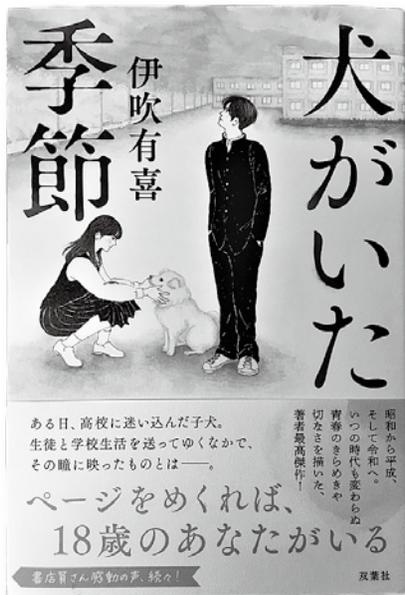
トークイベントの様子



記念撮影



当日のサイン会



美術教室にて



図書館で有志と懇談

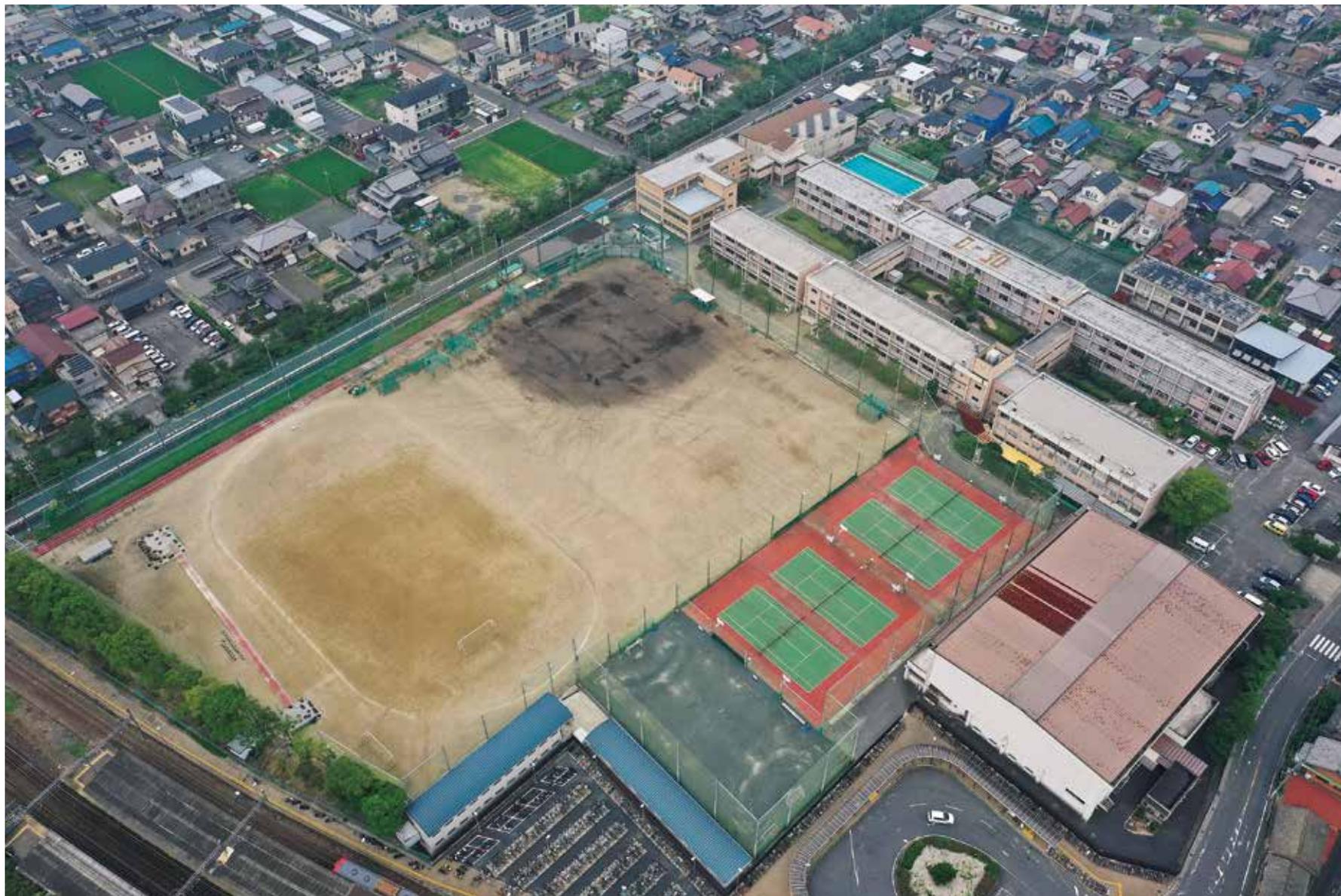
つたのは、1年生から女子が1名、2年生からは女子が4名と男子が1名の合計6名で、当日は、『犬がいた季節』の感想を述べた後、今の自分の悩みごとや進路選択の経験、伊吹さんの高校時代の様子などについて質問し、それに対して伊吹さんから丁寧に、また温かい視点で答えてもらっていました。

トークイベント後にはサイン会があり、参加した四高生もサインをいただき、忘れられない文化の日となったようです。

伊吹さんは今回の『雲を紡ぐ』でも残念ながら直木賞の受賞はなりませんでしたが、すでに複数の作品が映像化や舞台化され、さらに今後もいくつかの作品が映像化されていく可能性があるようです。またこの原稿執筆時点で、『犬がいた季節』が本屋大賞2021のノミネート10作品に選ばれたという朗報も入ってきました。今後の益々の活躍をお祈りし、応援していきたいと思えます。

(文責/教頭 丹羽 徹)

# 空から見た母校



創立120周年当時（平成30年7月3日撮影）



創立70周年当時（昭和44年）



創立100周年当時（平成11年）

## 編集後記

日本中、否、世界中が右往左往した昨年でしたが、今年もまだ例年通りの会の運営はままならず暗中模索は続きます。その中で、今までとは視点や方法を変えての対処に踏み切ったり、新しいことへの挑戦も生まれています。この大きなうねりに抗うことなく、しかし大切なことを見失うことなく一步一步進むことを旨とせねばと思

う次第です。さて一方で、伊吹さんの母校での思い出から出発した本が出版され、さらに今年は富中36回卒の大先輩音楽家伊藤亘行氏の生誕100周年ということで催しが企画され、卒業諸氏の話題に事欠かない今年度でした。以降の益々の発展を期待いたします。

（小林の）